令和８年度　第１回舞鶴市図書館基本計画審議会 記録（抄録）

日時：令和8年10月17日(土)18時05分～19時45分
会場：舞鶴市役所 大会議室

１　開会 （１８時０５分）

［鴨田市長挨拶］

- 令和４年に答申を受け策定した舞鶴市図書館基本計画に基づき、これまで中央図書館の整備と図書館機能の再編に向けた取り組みを推進してきた。
- 中央図書館の整備は、物価高騰や資材費・労務単価上昇等の影響を受け、入札取り止めという状況。市民や委員の皆様にはご心配をおかけしているが、より適切な形で確実に整備を進めるため、再度入札に向けて準備を進めている。
- 中央図書館の進捗報告とあわせ、全市的な図書館ネットワークの構築に向けた、各地域における分館、特に東分館についてご意見を伺いたい。
- 東分館は、これまで「商工観光センター」と「まなびあむ」の２施設を候補地してきたが、運用上及び構造上の課題があり、より多くの市民の皆様に支持される東地区の分館とはどのようなものか検討を重ねる中で、今般、赤れんが博物館として運営している「赤れんが１号棟」を新たな候補地とする案についての検討を開始した。
- 赤れんが１号棟を図書館として活用できれば、東地区の地域特性や魅力を最大限に活かし、誇りと愛着を持てる空間をつくりあげることができると考えている。
- 舞鶴市が目指す図書館機能の再編と魅力あるまちづくりの実現に向け、着実に施策を進めていきたいので、忌憚のない意見と活発な議論をお願いしたい。

２　議事① 会長、副会長の選出

会長に中川幾郎氏、副会長に常世田良氏を委員の互選により選出

３　議事②［報告事項］中央図書館の入札について

［事務局からの説明］

- 令和8年9月1日に電子入札にて開札を予定していたが、8月31日の入札締切までに、応札者が無く入札不調となった。
- 参加資格の確認が取れていた事業者から聞き取ったところ、『提示された予定価格では採算が合わない』という声が寄せられた。昨今の急速な物価高騰や資材費・労務単価の上昇が大きな背景として判明。これを受け、最新単価による再積算、執行条件の最適化や工程見直しにより、速やかに再入札に向けて取り組んでいる。
- 再公告に向けた取組として、現在プレ公告を実施。前回との変更点を事前に周知して準備時間を確保し、併せて事業者間のパートナーシップ形成を支援するもの。

- プレ公告は10月2日から開始しており、約1ヶ月間の運用期間を設け、個別説明会やパートナーマッチングなどを支援し、11月5日には新たな条件に基づく公告を予定。

［委員からのコメント］

- 他市の図書館建設事案では都市計画上の制約で難しい状況に直面しており、議論をしている間にも建築費が上昇してしまっている。
- また別の市でも中央図書館について議論し、構想を作り、計画も作っていたが、再開発に向けた契約中に建築費・資材の高騰によって、計画がゼロベースになった。
- 舞鶴市の場合は方針がはっきりとしているので、予算措置の課題はあるが、議論のあり方としては状況は良いと言えるだろう。

4　議事③［意見交換］ 東分館の候補施設に赤れんが１号棟（現・赤れんが博物館）を加えることについて

［事務局からの説明］

（赤れんが博物館）

- 赤れんが博物館は開館から33年が経過し、多くの来訪者に親しまれてきたが、平成29年をピークに来館者が伸び悩んでいるほか、赤れんがパーク西側に最大規模の駐車場を整備したことで来訪者の周遊動線が変化。
- この課題解決に向け、赤れんが博物館を赤れんが６号棟へ移設し、隣接する７号棟も含めて、舞鶴のアイデンティティである「近代化遺産のまち」を強力に発信する拠点として再構築することについて検討中。

（図書館東分館）

- 舞鶴市図書館基本計画では、情報提供サービスの拡充や市内各地域とのネットワーク化を図るため5箇所の分館設置を予定。このうち東分館は、現東図書館からの近接性および既存施設の活用によるコスト抑制を重視し、これまで商工観光センターとまなびあむの２箇所を候補地として示してきた。
- 一方、商工観光センターは商工業者・就業者へのアプローチはメリットであるが、施設の性質上、高齢者や子育て世代の利便性や親和性の課題があり、まなびあむはスペース・レイアウトの制約、高層階へのアクセスという面での課題が残されていた。
- 前述のとおり、赤れんが博物館の６号棟への移設検討に伴い、赤れんが１号棟を図書館の東分館として活用できる可能性が生じた。
- 現在赤れんが博物館2階に所在する近代化遺産保存センターについても、地域が誇るべき歴史的資料の展示等を計画し、一体的に運営していきたい。
- この計画が実現すれば、東体育館はスポーツ、総合文化会館は文化活動、赤れんが１号棟は図書館として学びの拠点となり、子育て交流施設あそびあむを含め、一帯を市民を対象とした生涯学習ゾーンに位置づけられる。

- これまでは2つの施設による相互の機能補完を想定していたが、赤れんが１号棟なら1つの施設で滞在・交流型空間としての役割が果たせる。
- 開架冊数や延床面積は、赤れんが１号棟なら2施設あわせた規模の面積・冊数が確保できる。
- 東図書館との近接性は、まなびあむが優位。
- 空間・動線面では、商工観光センターのようなロビー空間では活用に制限があり、道路横断による安全性も課題。
- まなびあむは細分化された小スペースでは一体活用の難しさ、エレベーター利用が必須である課題もあり。
- 公共交通の面では、東西循環線利用の場合、商工観光センター・まなびあむは、大門通／駅前通三条からどちらも約600m、赤れんが１号棟は、赤れんがパーク・市役所前から約300m。
- 赤れんが１号棟はカウンターおよび専用事務室の確保により、運用面、窓口でのレファレンスの面でも優位性がある。

（赤れんが１号棟を図書館東分館とする場合のイメージ）

- 中央図書館との連動を基本に、東地区の市民や若い世代も誇りを持って集える空間を創出したい。
- 2つのフロアを活用し、１階は予約・貸出の基本的機能に加え、若い自衛官や海上保安学校の学生なども寛げる憩いの場になり得る。併せて前庭広場も活用し、これまでにない屋外とも連動した開放的な空間を創出したい。2階は学習・研究のための静寂の場として低い書架を配置し圧迫感を抑え、学習、研究に没頭できる場所とし、近代化遺産保存センターと連携することで舞鶴の歴史や海上自衛隊や保安庁に関する資料の展示や講座などを展開したい。
- 地域の居住人口に合わせ、他の分館よりも開架冊数、規模は大きくし、開架冊数は東図書館の約１／３、延床面積は約半分を確保したい。

（今後のスケジュール）

- 仮に赤れんが博物館を６号棟へ移設し、赤れんが１号棟を図書館東分館とする場合、令和9年度は、１号棟は赤れんが博物館として現状のまま運営、図書館東分館の中身を具体的に検討。
- 6号棟の修理・耐震補強工事が完了する令和11年4月に新たな赤れんが博物館のオープンを見込むことから、その前に一定の期間、赤れんが博物館の展示品の移設、図書館東分館とするための改修や備品・書籍の搬入の期間を設け、図書館東分館のオープンも令和11年4月を見込んでいきたい。
- 中央図書館は来月に再公告、12月の入札を予定していることから、1月に着工した場合、工期を考えると竣工は令和10年の8月頃を想定。その場合、東・西図書館から職員や蔵書を集約させ開館に向けて準備する必要があるが、なるべく東地区に図書館空白

期間を設けないよう既存の東図書館は縮小運営とし、赤れんが１号棟の東分館オープンまでは運営を継続。

［委員からの意見］

- 中央図書館ができるときに、西地区なら舞鶴公園の一部、東地区なら赤れんがに、と思っていたので率直にうれしく思う。
- 赤れんがパークでイベントがあるときはキッチンカーも来ていたりして、食事を楽しむことができ、賑わうので、イベントに来られた方にも図書館を覗いてもらうこともできるのではないか。
- バスが市役所のところまで入ってくるので、近くまでバスを利用できるのも良い点であり、さらに高齢者や子育て世代などが簡単に利用できるようパスポート・バスチケットのようなものもあると、公共交通機関の利用にもつながるのではないか。
- １つのゾーンにいろいろなものが集まっていくことについても、嬉しく思っており、大賛成である。
- 「ちえなみき（敦賀市）」や綾部市の図書館を知人に勧められることがあるが、「赤れんが」に図書館ができたら自分も知人に自慢したい。
- 子どもが上質な空間で過ごすことができるだけでなく、大人も行ってみたくなるのではないだろうか。
- これまで議論してきた図書館機能を持たせられることもでき、歴史ある建物を図書館とすることで話題性もあるので、いろいろな人がきて、本に触れていただけるきっかけとなるのではないか。
- 見ていて魅力のある建物なので、あとはどのくらいの規模のものにするかが重要。
- 体育館やイベント施設等を使っておられる方もいるので、需要があると思う。
- 自衛隊や海上保安学校の方も市民として受け入れる文化のゆとりが感じられ、繋がりが生まれる自慢の場所になるのではないか。
- 中央図書館を充実したものにするという最初の目的はあるが、赤れんがの図書館も特色のある充実したものになれば良い。
- 図書館の職員だけでなく、舞鶴市全体で考えていくことで、他の委員が言われていたように自慢の場所になると思う。
- 赤れんが１号棟はまちづくりの象徴として使われ始めた舞鶴の歴史・まちづくりの歴史の象徴であり、中央図書館が舞鶴の未来を象徴するものなので良い対比になる。
- 市役所に隣接しているため、行政支援サービスもできる上、市役所との連携も常に図れるというメリットがある。
- 現場で働いていたことのある人間としては、いろいろな機能を詰め込まずに、シンプルに図書館機能だけにしてはどうかと感じる。
- 赤れんが１号棟は規模感としては大きな図書館ではないので、近代化遺産保存センターとの連携も考えて、何かカラーを持たせてもよいのではと思う。

- 基本的には賛成だが、蔵書のバランス・配置などは考えてもらいたい。
- 当初の構想から言うと、西に中央図書館ができるから東にも図書館を置くのではなく中央図書館と連携をして、市全体に向けてサービスを行うために、分館を置くのであり、その視点でいくと「まなびあむ」と「商工観光センター」という２箇所よりも、有利かつ発展性もある「赤れんが１号棟」がベターどころかベストの選択だと思う。
- 東・西の郷土資料館の機能は、今後、近代化遺産保存センターが持つのか。
  →【事務局】
  ・近代化遺産保存センターは市街地や民家の脇などにある、近代化遺産の情報を収集し、記録を残すなど保存をしていく活動をしており、現在、そのセンターの事務室が赤れんが１号棟の2階にある。
  ・今後も扱っている資料を見たり、学んだりできるようにしたいと考えている。
  ・これは図書館とも相性が良いように思っている。

（「まなびあむ」、「商工観光センター」についての意見）

- 分館があれば丁度良いと思える場所なら賛成だが、「まなびあむ」、「商工観光センター」では、間借りしているという感じが拭えない。
- 「まなびあむ」や「商工観光センター」へ、わざわざ利用するために出向くのか疑問。特に車で動ける世代ならば、わざわざ利用しようとは考えにくいのではないか。
- 「まなびあむ」、「商工観光センター」では“図書コーナー、図書室”というイメージが拭えない。

（名称についての意見）

- 赤れんが１号棟に入るのであれば、「分館」という名前ではもったいない。
- 行政的な区分として分館と位置づけるのは良いが、ネーミングについては市民も一緒に考えるなど親しみやすい赤れんがの建物にあったネーミングが良いのではないか。
- 今の南分館などについても、それぞれの地域に合った愛称をつけても良いのではないかと思う。
- 建物の全体面積が800㎡を超えるこの規模であれば、「図書館」と呼んでいる自治体もある。
- 募集した愛称を別途つけるのか、正式に施設の名前とするのか、または分館の基準を明確にするのか、分館の名称についての見解を聞きたい。
  →【事務局】
  ・「分館」という名称にすることで、図書館がないというイメージにならないように、名称は公募するなど、工夫することによって市民が誇れる図書館にしたいと思っている。みなさんのお知恵もお借りしたい。
- 当初、東・西の対立をなくすということで中央図書館を東西統合のシンボルとする、としていたが今回の東分館のように規模を大きくし「図書館」という名称をつけると、また東・西どちらにも同じように図書館をつくるという誤解が生まれるかもしれない。

- しかし、今までの東・西図書館は、違う電車が同じレールを走っているように、ほぼ独立して運営・サービスを行っていたが、今後は同じ鉄道会社になって同じレールを走っていくというような、全く違う図書館のあり方に変わっていく。
- さらにデータベースや有料AIを使った高度なサービスを街全体に広げていき、拠点としての中央図書館を中心として、市内全体にサービスを広げていくための接点化された図書館の一つとして分館を整備するものである。

（赤れんが１号棟の活用における懸念点）

- 西図書館では平日の開館前から5～6人は待っている人がいて、土日の図書館は利用も多いので、そういった日常的に図書館を居場所として使っている人、勉強をしている人や小さい子どもを連れた保護者の方など、日常的な図書館利用者が過ごしやすく長時間の滞在を容認できるのかが心配。
- 観光地であり、イベントなどもしているので、車やバスツアーなども来るが、舞鶴で生活をしている人たちが使いやすい図書館になれば良い。
- 赤れんが１号棟は観光客の動線上にはないのではないか。図書館になったらイメージが変わるかもしれないが、現状、市政記念館の周囲に観光客が訪れており、その場所とは少し離れていることから、日常的な利用ができないようなことにはならないと思う。

  →【事務局】

  ・すぐに動かせないのは、１号棟の前から発着する遊覧船であり、今も非常に高い人気を得ており、そのチケット売り場は赤れんが博物館にあるので、ここは丁寧に考えたい。
- 北吸三角地に駐車場ができることは知っているが、駐車場の確保ができるのかが心配である。
- 駐車場については、総合文化会館で大きな催しがあったり自衛隊による音楽会などがあったりすると一杯になってしまうので、具合が悪いかもしれない。

  →【事務局】

  駐車場についてはメインは東体育館前の駐車場で考えているが、更に１号棟の周辺用地については、今後どうなっていくか分からない部分もあるので、市民の方をターゲットにしたゾーニングを検討する。
- 施設や設備、特に空調設備の耐用年数などは確認しているのか、また海の近くであるので、浸水等の危険性についても確認してほしい。

  →【事務局】

  ・空調の機械については今は問題なく稼働しているが、耐用年数・浸水対策についてはまた提示する。建物そのものは平成５年に耐震工事済。

（赤れんが１号棟という建物について）

- 敷地内がきれいに整備されており、広場についてもそのままイベントができるほどきれいに管理されている。

- 地元の方にとっては寂れた風に見えるかもしれないが、他の地域の人からすると非常に品格があってモダンな感じがする。
- 軍事用の施設であったので無駄のない設計で、このレトロモダンな感じを今はお金を出して作ったりしているところもあるが、それではなかなか出せない雰囲気がある。

（分館の蔵書について）

- 資料では延床面積が500㎡だが、建物だけを見た場合、全体で845㎡あり、近代化遺産保存センターの事務室などがある分小さくなっているが、面積だけを見た限りでは６～７万冊は置けるのではないかと思うので、蔵書のキャパシティについてはもう少し考えてもらいたい。
- 重要文化財のため、可能かどうかは分からないが、鉄骨と木の梁が剥き出しなので補強も非常に簡単にできると思う。軍事用施設で頑丈に作られていることもあるので、2階にも本が置けるのではと思う。
- 2箇所に分散させて5万冊置くのと、一箇所で5万冊置くのではまったく質が異なる。分散させるとどちらも中途半端になってしまうが、一箇所に集めることで蔵書の中に専門的な本を混ぜることもできるので、蔵書は一箇所に集中させるほうが良い。

（中央図書館と分館について）

- 中央図書館ができることで資料が集中し、使い勝手が良くなるからといって地域の図書館が小さくてよいというわけでなく、大きい中央図書館と小さい分館というだけが図書館のあり方ではない。
- 市民からの要望で、中央図書館があってももう一つ図書館を建設した自治体もある。

（新たな候補施設の提示による市民の反応）

- 東に住んでいて他の方に意見を聞くと、反対とまでは行かないが、「まなびあむ」と「商工観光センター」に二分されるのであれば、現在の東図書館を改修してくれれば良いという意見はある。
- これまでの２施設よりも「赤れんが１号棟」で特色を出したほうが、今後の展開としても面白いのではないか。分館がおしゃれ、というのも面白い。

（審議会としての結論と今後の議論について）

- 委員の皆さんの意見をまとめると「赤れんが１号棟」に図書館を設けることに関しては「承認」したということとさせていただきたい。（全員承認）
- 今回の議論で芽はでているが、今後の具体的な東分館のあり方についてもっと議論を深めるため、2月または3月頃に次回の審議会を開催してはどうか。

  →【事務局】

  ・第2回の審議会については日程調整の上開催したいと考えているため、よろしくお願いしたい。

５　閉会　（１９時４５分）